時事新報の編輯に關する書信にして往々社員へ宛御送致の向も有之候得共宛名の社員不在れ事ありて折角の報道も其用を爲さゞると寡からざれば斯る書信は一切時事新報編輯局宛にて御送付被下度候

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日も休刊せゞ其代價遞送料廣告料へ左ノ如し

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社より直接に郵便にて遞送スルものに限り右定價ノ外に一箇月二十六錢ノ遞送料を申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字一行廿四字詰	一行一日限	一行二付二日以上六日迄	一行二付七日以上十五日迄	一行二付十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢	二厘
自十一行至廿行	九錢	七錢	六錢	三厘
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢九厘五毛
			五錢	五厘

時事新報

日本鐵道論（前號の續）

次に鐵道切符の法に至りても英米を比較して米國法の利便なるゝと著るし即ち英國は切符發賣法は嚴重究屈極まりなき者なれども米國にては全く之に反して旅館若くは便利の箇所に於て到る處切符を賣出さしむるが故に旅客は意に任せて之を買ひ置き平生は懷中に納めて用ある毎に之を使用し一旦車に乘るも又途中にて下りたく思はゞ下るゝとも勝手にて其切符は無効に屬せず唯乘りし丈けの賃錢を拂へば足るの算當なるが故に切符を買損の憂あるゝとなし此等の便實に他國より視ざる所あり（中略）

前條說き來るが如く米國人は常に人事の將來に注意を向け如何にせば以て後の社會の福利便益を促すを得可きやと唯其事にのみ汲々たれば總して發明工風れ事も至便至利を目的とし舊例古格に束縛せらるゝ事なきの一段は英國人も其步を讓らざるを得ざる所なり即ち鐵道に就て之を言ふも現に數年以前の事なり或る米國人は太西洋海岸より太平洋海岸に通ず可き鐵道軌條と巾三十英尺となし機關車列車も其割合に作りて速力と一時間百二十五哩に見積り以て大鐵道を作らんとの工風を立てたり固より極端に走りたる想像にして軌條三十英尺の鐵道は容易ゝ實際に見る可らざる可しと雖も兎ゝ角に斯る奇軸と考へ出したるは事實上、意匠に富むの證據にして意匠ゝ富むは即ち米國鐵道の他に擅んで〜亦最も進步改良の行はれたる所以と知る可し

右の議論い總て文明の事業に於て我は如何なる國民にも讓る所なしとして敢て自から任する英人の口ゝ發して筆に記しさる所のものなり英人にして尙ほ斯る議論と公けにするより見れば米國鐵道の他國に比して一層完全なる其趣は明白なる可し隨て日本に於て之れを用ゐるの得策なる素より論を俟たずと雖も我輩は更ゝ前說を繰めんが爲め一步を進め各局部に就て聊か知る所を陳べ以て米國風の鐵道を日本に移すの要用を世の鐵道事業家に勸誘せんと欲する者なり偖又之を論ずるに當りて先ず注意すべき項目を數けざる可らず

第一　國風の作り
第二　汽車の作り
第三　汽車の運動
第四　速力
第五　小荷物法
第六　旅客の便利
第七　死傷の割合
第八　建築費
第九　修業費
第十

之を要するに鐵道の目的は最少の費用を以て旅客貨物に最大の利便を與ふるに在る者なれども此點に於ては英米兩國の鐵道何れも未ゞ完全に達しさりとは云ふ可からず故に今後種々の改良法を施し不完全より進んで完全の域ゝ到るまでには幾多の年月を要すべきこと論を俟たざる所ゝして有名なる米國セントルバニヤの鐵道の如きゝ方今最も改良工風の行はれさる線路なれども踏切道の工事不充分なるを以て往々危險あるを免れず將たブロック、レスチム（暗號法）の法も米國には未だ英國の如くに行はれずして此等は米國鐵道の缺點なるや明なり然れども英國の客車は旅客の爲めに米國はどの便利なゝは勿論殊には車の作り低くして且つ狹隘なれゝ之を改良すること容易ならずと云ふ或は鐵道切符の法の如きも米國丈けの便利は未だ英國ゝ行はれず將た營業の上に於ても英國風の仕組にすれば徒らに人夫を要して從て冗費の多き言を俟たず或は英國の客車には煖爐の備あくして旅客をして寒氣に苦しむる事或は列車の震動を防くするが爲めボーギー、トラックの設けならざる等何れも英國鐵道の缺點なり斯の如く英米兩國の鐵道は孰れも完全なるに非ずして局部より見るときは一得一失容易に優劣を判じ難き有樣なりと雖も等しく不完全の其中にも日本に適するゝ適せざるゝの一段ゝ至りて自から判斷を要そることなれば先づ愛に日本國を中心と爲して標準と定め其大體に於て英米兩國の鐵道中、日本向きは孰れ佳りやと云はゞ我輩は米國に左袒せざるゝ得ず其然る所以は鐵道の良否を論するに非ず唯米國風に從へば費用の廉なるが爲めのみ既に費用の廉なるゝと得れば假令へ其物に少々の缺點ありるも尙ほ得失相償ふ可きの道理なるに事の實際に於て米國の鐵道決して不完全ならざるのみか新思想新奇軸を出すに長じたる米人の伎倆として事實の利益輕便或は歐洲人の思ひ到らざる處なきに非ず就中諸車の構造に至りては米國の英國に勝るゝは萬々にして例へば彼のパルチモー、オハヨー鐵道の如きは山嶺蜿蜒たる地方を通過し全線の半ばは弧線にして然かも其弧線は半形六百尺の彎形を爲し勾配は一英里に一百二十英尺の傾きなれども列車の之に依て上下し旋轉するに不便なきゝ畢竟諸車の作り宜きを得たるものと云ふの外なし左ゝば日本の鐵道と英國風にせんとせば弧線を廣めて直線と爲し急勾配を削りて緩勾配と爲さが爲めに費の嵩むのみならずパルチモー、オハヨー線路の如く彎曲昇降する地方には鐵道の敎政を見る能はざるゝとも亦る可し畢竟するに米國の鐵道は資本乏しけれども工事は急がざるを得ず、地勢は險なれども敷設は見合せす可らずなど云ふ日本の如き國に取りて最も便利なるものなれゝ之を今日に採用するは我經濟の得策なる可しと我輩の信ずる所なり　（未完）

雜報

○佛國博覽會出品種類及人員　來る明治廿二年四月より開會すべき佛國萬國大博覽會へ出品の許可を受けし至適スル英語及ビ佐文チ教授スル等ニテ實用英語及英文學チ神田小川町五十一番地ニ於テ教授ス今般本科ノ外ニ本邦人ニ

●米國人　ウヰリアム　友常叡三郎
會話專修

自消安全燈着荷廣告
英國新發明ニ係ル自消安全ランプ（一名地雷ランプ）ハ假令ヒ之ヲ壓上リ落シ又ハ手ヨリ之ヲ落スモ自消ノ働キヲ以テ忽チ滅火スルノ仕掛ケナルガ故ニ拙宅又ハ馬車ニ乘ラレテ日大事ノ品レナ

●大倉製金庫
●火災保險附製造專賣
益々改良に改良を施し堅固は堅固を加へ

本塾志願者　幼年科
至急

府縣名 | 彫刻 | 繭 | 生糸 | 飲料並食用品 | 織物 | 蒔繪漆器及漆器 | 金屬器 | 七寶 | 煙草

東京都 | 二 | 一五 | 一 | 一 | 一九 | 一七 | 二五 | 一七 | 二三 | 一九 | 三〇
京都 | 一六 | | | 一 | 一〇 | 二五 | 九五 | 六 | 一九 | 三五
大阪 | | | | | 九六 | | 二、七、四 | 七六 | | 三五
神奈川 | | | | | 二、二七 | | 六 | 七 | 八 | 三
長崎 | | 六 | | | 七六 | | | | 三 | 三
新潟 | | | | | 八五 | | | | 太 | 三
茨城 | | | | | 三四 | | | | | 三
玉川 | 二 | | | | 二五 | | | | | 三
栃木 | | | | | 三六 | | | | | 三
群馬 | | | | | 二八 | | | | | 三
埼玉 | | | | | 五 | | | | | 三
千葉 | | | | | 二 | | | | | 三
三重 | | | | | 四 | | | | | 三
愛知 | | | | | 四 | | | | | 三
靜岡 | | | | | 二〇 | | | | | 三
山梨 | | | | | 二 | | | | | 三
滋賀 | | | | | 一八 | | | | | 三
岐阜 | | | | | 二 | | | | | 三
長野 | | | | | 一 | | | | | 三
福島 | | | | | 一 | | | | | 三
新潟 | | | | | 一 | | | | | 三
秋田 | | | | | 一 | | | | | 三
山形 | | | | | 一 | | | | | 三
石川 | | | | | 一 | | | | | 三
鳥取 | | | | | 一 | | | | | 三
廣島 | | | | | 一 | | | | | 三
高知 | | | | | 一 | | | | | 三
大分 | | | | | 一 | | | | | 三
佐賀 | | | | | 一 | | | | | 三
熊本 | | | | | 一 | | | | | 三
北海道 | | | | | 一 | | | | | 三
宮城 | | | | | 一 | | | | | 三
岩手 | | | | | 一 | | | | | 三
奈良 | | | | | 一 | | | | | 三
和歌山 | | | | | 一 | | | | | 三
福井 | | | | | 一 | | | | | 三
富山 | | | | | 一 | | | | | 三
愛媛 | | | | | 一 | | | | | 三
山口 | | | | | 一 | | | | | 三
宮城 | | | | | 一 | | | | | 三
合計 | 四三 | 一九九 | 三、〇〇三 | 一九八 | 三三、一三三 | 七、六九七 | 三五六、一、一五

（備考）鋼、磁、漆、金屬、七寶器等は一對一揃一組等を一とし織物は一

二點、出品人員五百四十三人なり即ち其物種及人員等の府縣別は左表の

○英國皇室の歲入　同國皇帝皇太子諸皇族等へ國庫より出す所の金額を聞に皇帝は三十八萬五千磅の內宮內諸官吏及同官吏退職者の恩賜年給、窮民の救助費、不時の恩賜を引去れば全く皇帝の私財は六萬磅にて外にランカスター州に在る皇帝の料地より收入するもの九萬千二百零二磅あり（千八百八十六年の收入高なり）內四萬千二百零二磅は皇有地の諸費に支出するものなりといふ皇太子へ國庫より出すものゝ四萬磅と外にコーヌウオールス州の所領地より收入するもの其諸費を引去り六萬二千五百七十四磅、皇太子の費は國庫より一萬磅、諸皇子は國庫より何れも二萬五千磅、皇女は六千磅宛にして獨逸皇后は長皇女あれば特に八千磅、ケンブリヂ公は皇帝の從兄弟なれゝ一萬二千磅を送與するものなりと左れば右等の向へ國庫より支出もる總金高は五十六萬八千零六十五磅なりといへり

○米國第一の名優　米國ミシガンのアムアーボルに在留れ人より東京の去る方へ達したる手紙の端に前略當地は田舍にて別段珍事とは之なきまゝ去る八日（五月）興行なりし芝居のみとに付き少しく御耳に入れ申度候扨てブースと申すものは米國第一の名優ゝして歐洲にも稱れある技藝を持つとの評判ゝて此優と其第二流に位するバーレットれ二人は先頃當地の劇場に參りシエークスピヤの一段を演するゝよしにて觀覽切符は開場ゝ先つ一週日前の朝七時半より賣出したるに同ゝく八時ゝは總べて賣切れとゝり演劇當日は又中々の大入りにゝて椅子一圓三弗れ定めあれども遂に十五弗を拂ふて漸く遂き一方の桟敷を得たるほどに付御承知の通り豫て小生には觀劇の癖ある上に旅の無聊を慰めんと辛ゝして入場なしたるゝころにて先づ打眺めしに來場の紳士多くゝば高帽盛服にて衣冠正しく扣へ居る其間合々々にゝ優に美しき貴女の今日と晴れと着飾りたるさまは紅緣相映して亦為れ一種の見物ゝと思はれぬ桟敷に在りて酒肴を用ふるゝと云ふに及バず喫煙の風さへなければ滿場甚だ閑潔ゝり殿ゝて幕開れ優出で技藝巧妙殆んと眞に遂り出來の頗る宜しきゝときも物柔らかに指手するのみ日ゝり始まり夜る十ゝ諸人の機敏ゝ居り異言變態の芝居いたし候事なれども流石は流行ゝとにて後ゝて來がらにも流行ゝとの聲に應じ始終諸にて而かも國の足を容れたる事人は有名ゝある大以て深く自から慎むべきゝ性質のやうゝ優れば收入も諸人ゝ以て本年一日の金額は九十萬十五萬餘弗を輸し汽車懷中ゝ歸し汽車くる許りの大盛の人と共ゝ歡富

○田中工場は模志を繼ぎて益々殼したる工場の追々盛大に赴ら今は海軍よりの使役して專ら水の左右ゝ分る正大なるもの即ち細の魚形水雷并に來上りたる分は鋼鐵製にて日副ゝ又魚形水雷

○佛國萬國大博覽會出品種類及人員　來る明治廿二年四月より開會すべき佛國萬國大博覽會へ出品の許可を受けし至適スル英語及ビ佐文チ教授スル等ニテ實用英語及英文學チ神田小川町五十一番地ニ於テ教授ス今般本科ノ外ニ本邦人ニ